

平成20年度 学 校 プ ロ フ ィ ー ル

鈴鹿市立稲生小学校

記 述 項 目	記 述 内 容			
1 目指す学校像	人間性豊かで、たくましい実践力をもった子どもを育成する学校 ・ 学：学びを大切にし、進んで高まろうとする子どもが育つ学校 ・ 感：感動を大切にし、思いや願いを素直に出せる子どもが育つ学校 ・ 律：規律を大切にし、正しい行動をすることに誇りをもつ子どもが育つ学校 ・ 命：生命を大切にし、心身ともに健康に生きる子どもが育つ学校			
2 学校経営の基本方針について	・ 一人ひとりの実態や願いに応じ、きめ細やかな指導を行い、基礎基本の着実な定着特別支援教育を充実する。 ・ 人権尊重と個性の伸長を基盤とし、思いやりの心を育てる。 ・ 生命をかけたがえのないものとして尊重し、心身の健康とともに事故防止に努める。 ・ 「静かな学校・美しい学校」にする。			
3 「価値」を提供する相手方について ①相手方の区分	児 童	保 護 者	地 域	中 学 校
②現在の要求・期待	楽しい学校 仲のよい友達 認められる自分 わかる勉強	仲のよい友達 安全安心な学校及び通学路 基礎基本の定着 子どもの健康	挨拶ができる子 心身の健康な子 地域を学ぶ子 規範意識のある子	「聞く力」「話す力」 「書く力」の育成 授業規律の確立
③要求・期待の将来変化	楽しい学校生活 仲のよい友達が多くできる 認められる自分 勉強が楽しい	仲のよい友達が多くできる 子どもにとって安全安心な環境 基礎基本を確実に身につける 健康な体になる	挨拶ができる子 稲生の文化を担い継承する子 規範意識を身につけた子	基礎学力の定着規律やルールを身につける
4 学校を取り巻く環境変化について	・ 学校周辺の小規模及び中規模の住宅化 ・ 児童数の増加傾向（5年後推計644人） ・ 交通事情の悪化（朝夕の交通渋滞と運転者のマナー） ・ 交通事故や声かけから子どもを守りたいと望んでいる保護者 ・ 地域の人たちの学校及び子どもの健全育成に寄せる強い思い			
5 教職員の人材育成について	= 「きょうは楽しかった。明日も学校へこよう」と思うような学校づくり = ・ わかる授業、楽しい学校づくりを目指し、指導力の内助・助言・支援 ・ 人権（体罰・セクハラ）等に関する研修を実施し、教職員の人権感覚の向上を図る。 ・ 職員会議や研修会での積極的発言			
6 パートナーについて ①主要なパートナー	保 護 者	稲 生 幼 稚 園	地 域	中学校区の 幼小中学校
②パートナーとの関係の将来変化	日常的な支援協力、 安全安心の連携、 学習ボランティアの活用	行事の共有協力、 児童園児の交流、 教職員の連携	学校評議員の学校への助言、挨拶運動や登校時の指導協力	生徒指導・人権教育等による連携の推進
7 その他情報 ①児童生徒数 ②教職員数	① 児童数：626人 ② 教職員数：46人（含：非常勤講師 3・相談員1・拠点校指導員1・学校医5・介助員2人）			